

2019 年度北海道大谷学園連合会高等学校相互評価
自己点検評価報告書

函館大谷高等学校

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

【建学の精神、教育理念について】

Q：I-1 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

A：I-1

親鸞聖人のみ教えに自己を尋ね聞き、自己実現の道を歩む人間の誕生を学園の願いとします。

- 一 かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚をうながす教育。
- 一 生まれた意義と生きるよろこびを見いだそうとする意欲と自信を育てる教育。

明治時代、六つの宗旨・宗派からなる函館六和講寺院が互いに宗旨や宗派を超えて、本来の和合僧に立ち返って共同教育事業を起こしたことに始まる〔六和女学校〕。

函館の地で女子教育の必要性は時代と地域社会の要請でもあり「いきいきと生きられる人間の誕生」を願ってやまない情熱が建学の志となった。「函館大谷」の誕生は、「六和」の準備事務局をつとめた函館別院を中心として、真宗大谷派に身を置く人々の深い願いにより「こんな人間を育てたい」という情熱が「大谷」を名告る学園を誕生させた。

Q：I-2 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で生徒や教職員に知らせているかを記述して下さい。

A：I-2

学校案内パンフレット、入学式・卒業式の校長・理事長の式辞、挨拶の中で新入生・保護者・教職員に周知している。生徒には「生徒のしおり」や全校集会・始業式・終業式等の挨拶で周知を図っている。特に全校集会など全員が集まる場では、校長の話の折に必ず全員で合掌している。普段、忙しく日常生活をしている中であっても、互いに手を合わせることで「互いに認め合い、自分を大切に、また同じように他を大切に、自分を振りかえる中で今を一生懸命生きているか」など、自分自身を見つめ直す時間となればと考えている。

教職員には、校長の年度始めの経営方針等で知らせている。また、毎年年度初めに教職員を対象とした理事長講話を行い、建学の精神・教育理念の再確認の場としている。

Q：I-3 建学の精神、教育理念について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：I-3

建学の精神・学園訓は「大谷高校」として最も大切なものであり、具体的な生活で起こる人間の問題を深めていくための指針であると考えている。特に建学の精神に関してはどんなに時

代が変わってもすべての人間（自分）が変わらずに問われていくものであり、誰にでも共通して深めていかなければならない内容になっているのではないかと考える。

以上のことから時代に合わせて点検・改善というような理由でやみくもに見直し・改善していくものではないと考えている。現時点では見直しや改善は考えていない。

【教育目標・学校目標について】

Q：I-4 建学の精神や教育理念から導き出された、教育目標や学校目標を記述して下さい。

A：I-4

学園訓

人生を正しく見て禍福に惑わず真の幸福者になりましょう。

○報恩感謝～“生かされている自分”の存在に気が付き自然や社会の恵みに感謝しよう。

○言行一致～自分の行ないに責任を持ち、人格形成に努力しよう。

○親愛礼譲～かけがえのない“いのち”をお互い尊重しよう。

○和衷協同～互いに信頼しあい心を同じくして共に力を合わせよう。

教育目標

●人間性～常に相手を敬うことのできる豊かな人間を育成する。

●自主性～自己の信念をもって自由と責任を体認させる。

●積極性～人類幸福のための善には積極的な意欲と情熱を培う。

●協調性～お互いの人格を尊重し他をゆるす態度をもって協調性を体得する。

※昭和33年、『学園訓・教育目標』は学制改革と同時に時代の流れに即した言葉に一部変更がなされ現在に続いている。

Q：I-5 教育目標や学校目標を、現在はどうの方法で生徒や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

A：I-5

生徒玄関、体育館の壁への掲示。学校案内パンフレット、生徒のしおり、WEBサイト等に掲載している。また、宗教の授業だけではなく、合同進学説明会や高等学校私学進学フェア等においても各中学校・中学生・保護者等に伝えるようにしている。

Q：I-6 教育目標・学校目標について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：I-6

I-5でも記載したように掲示などでの周知は行っているが、まだ十分とは言えない。現状の周知方法以外にも数多く発信・提示することができないかを検討し、さらに浸透していくようにしたい。

<p>【定期的な点検等について】</p> <p>Q：I-7 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検が定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。</p>
<p>A：I-7</p> <p>定期的な点検は行なっていない。平成11年に「求め、磨き、自ら拓す」という教育目標を設定したが、平成20年より「学園訓に沿う教育目標を」との考えから、校長判断により職員会議に提案し、平成10年度までの教育目標である「人間性 自主性 積極性 協調性」に設定し直した。</p>
<p>Q：I-8 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目標や学校目標の点検及びそれらを生徒や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または職員会議がどのように関与しているかを記述して下さい。</p>
<p>A：I-8</p> <p>教育目標の変更について職員会議に提案し、全員で内容を確認し、理事会へ報告し承認を得ることになっている。</p>
<p>Q：I-9 定期的な点検等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。</p>
<p>A：I-9</p> <p>特に現状としての課題は無いが、理事長講話や宗教行事で学ぶ機会を増やし、教職員や生徒への理解を深めていきたい。</p>
<p>【特記事項について】</p> <p>Q：I-特 この《I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標について努力していることがあれば記述して下さい。また高等学校で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。</p>
<p>A：I-特</p> <p>あらゆる学校教育の中で、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標を意識する中で日々の教育活動を行なうことを心がけている。本学園では平成10年度より、“人間大好き”をスローガンとしており、入学式・卒業式等の校長式辞の中で披露している。また、<u>大谷専修学院元学院長 竹中智秀先生の言葉である「選ばず、嫌わず、見捨てず」を依り所として、とことん生徒に寄り添う教育を行う事を教職員が心がけ、すべての存在に感謝の心を持てる人を育てていきたいと、日々の教育活動で心がけている。</u></p>

《添付書類》A：建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標等についての印刷物・宗教教育シート・その他関係書類

Ⅱ 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

Q：Ⅱ-1 シラバスを作成し、それが実行されているか記述して下さい。

A：Ⅱ-1

シラバスについては作成していない。しかし、年度当初に必ず各教科から年間・月間指導計画を作成している。この計画のもと年5回の定期考査を実施し、その時点で進度や理解度について各教科において点検や見直しを行い、修正を加えながら、それに沿った指導をしている。

また、年度当初の授業では各教科担当が、今後の授業の方針や見通し、あるいは評価の基準等についてガイダンスを行っている。しかし、それは各教科担当に任されている部分が多く集団的に取り組んでいるといえる状況にはない。授業の方針や見通しについては教科部会で論議を深める必要があるが、計画通りに進めていくことに囚われず、生徒の実態を顧みずに「ただ計画通りに進めれば良い」となるのは問題であると思う。シラバスを作成するにしても年度当初より継続的に行われる議論の深まりが大切であり、「運動体」として機能させたいと考えている。

総合的な探求の時間を中心に相当数の時間講師の先生方がいる中、より綿密な連絡を取り合い、周知・点検・総括をしながらすすめていく必要があり、評価の基準についても、新任の教員が多い現状の中、教務部がみえる形で周知・確認をする必要がある。

Q：Ⅱ-2 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示してください。

A：Ⅱ-2

科目・総合的な学習の時間 漢字検定、硬筆書写検定

科目・情報科学及び社会と情報 日本語ワープロ検定、情報処理技能検定

いずれも履修のみでは取得できず、検定試験合格が必要。

Q：Ⅱ-3 教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

A：Ⅱ-3

日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、実用英語技能検定、日本語検定
危険物取扱資格、漢字検定、硬筆書写

当該教科の提起をうけて受験希望者を募り、選択授業の開設や希望者を対象に放課後講習を実施している。

資格取得については、資格は就職や進学において確かに武器となるものであるし大切なものである事に間違いはないが、さらに生徒達に資格取得に挑戦するという前向きな方向性をもたせ、達成することによる生徒の内面的な成長についても考えていきたい。

また、いくら資格という「武器」を手に入れても、生徒達の中身（学力）が伴わない

中では意味がなく、3年間の授業や講習の中で身につけた本当の実力～進学先、就職先を決定することだけでなく、次のステップで学び続けられる、働き続けられる条件としての実力～との兼ね合いで考えたい。

Q：Ⅱ-4 定期考査の結果をもとに、適切な教科指導がどのように行われているか記述して下さい。

A：Ⅱ-4

従来は、早期に基礎的な学力を回復させる必要性を感じ、学期末に希望者を対象に講習を行っている教科もあった。また、各教科担当者は考査の結果にもとづいて、特に弱点と思われる分野に焦点をあて、主に低学力者に対する反復学習に力を入れてきたが、全校的・組織的な取り組みとはなっていなかった。今年度より外部診断テストとして Benesse の基礎力診断テストを年2回実施しており、生徒の学力把握・向上の参考にしている。

学期末の定期考査後の結果により「1」が見込まれる生徒を対象とする補習・追試を実施している。この補習・追試に合格した場合は評価「2」となる。この取り組みにより、短い期間での学び直しをすることができるようになった。現在では学期末考査後の期間が「学力回復期間」として明確に位置づけられてきた。今後は「期間の設定」と「内容の充実」をさらにはかっていきたい。

「すべての生徒の学力を向上させる」という学校長の経営方針のもと、定期考査後に学力上位の生徒に対しても何らかの取り組みを行う必要があると考えている。今後、教務部からの方針と具体的内容を提起していきたい。

Q：Ⅱ-5 生徒の学習状況や評価方法などが、わかりやすく生徒や保護者に説明されているか記述して下さい。

A：Ⅱ-5

学習状況においては、考査毎に学級担任より成績の送付を行っている。その際、学年通信や学級通信等により、学年やクラスの状態を理解してもらえるようにしている。また、各考査後に、成績にもとづいて本人及び保護者に来校してもらい管理職・担任および教科担当者による面談を行っている。それは、主に進級や卒業への意欲を喚起し、具体的な今後の学習方法を説明する場となっている。

入学式後には、教務部から保護者を対象とする説明、新入生オリエンテーションにおいては生徒を対象として説明が行われ、学習に向かう姿勢・評価方法（とりわけ、授業態度や地道であっても努力を継続させる必要性など）等を説明している。しかし、他の分掌や事務部門からの説明もあり時間的にも限られるため、その1度だけでは保護者に周知するのは難しい面もある。そのため学年で保護者面談会を年に2～4度ほど開き説明を繰り返し、生徒の現状などを多方面から分析し、情報を共有するようにしている。

また、生徒には各教科担当者から最初の授業時に教科毎に説明、同時に各LHRでは、担任によるレクチャーがなされ、周知の徹底を図っている。

Q：Ⅱ-6 総合的な学習の時間が有効に利用されているかを記述して下さい。

A : II - 6

総合的な学習の時間は「オープン選択」という別称で様々な講座を設定している「生きる力をはぐくむ」という目的のもと、そのテリトリーを広く解釈した。主に芸術の授業だけでなくそれ以上に個性を伸ばしたいと考えている生徒向けの講座や進路を視野にいた講座、また、資格取得のための講座、さらに高校生活後にも続けられ生活を豊かにする糧とするべく設定された講座など多岐にわたっている。また、今年度入学生からは総合的な探求の時間として「選択した講座を履修することで何ができるようになるか」をもとに講座を展開している。

生徒は自分の興味・関心や将来に必要なと考える内容にもとづいて自主選択をする。その上でクラス（講座）の編成を行い、指導を行っている。

現在開講している講座は次の通りである。

- 1年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、実用英語、和楽器、写真研究、ペン習字、国語演習、韓国語
- 2年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、実用英語、和楽器、写真研究、合気道
国語演習、韓国語
- 3年・・・ピアノ、パステル画、陶芸、書道、和楽器、写真研究、国語演習
実用英語

Q : II - 7 生徒による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

A : II - 7

教科で行っている教科はあるが、学校としては生徒による授業評価は行っていない。

例えば、「研究授業」を行う場合、「研究授業のための授業」になってしまい、研究授業そのものが形骸化してしまうことがある。同じように「生徒による授業評価のための授業」になってしまっても同じ事がいえる。また、生徒自身が授業そのものに否定的な場合も、出てきた結果の取り扱いや分析に困難な面がある。また教師を批判するための単なるアンケートに留まっていたでは実質的な取り組みにしていくのは困難であろうと思われる。

しかし、生徒が今行われている授業をどのように受け止めているのか、理解しているのか等に謙虚に耳を傾け授業改善に取り組むべきであるのは当然のことといえる。

「教師が設定した授業目標について、生徒がどれだけ理解出来たか」ということに特化して生徒自身に評価をさせることで、教材や授業に改善の余地がないかを分析するというやり方をベースに検討したい。

Q：Ⅱ－8 高等学校全体の授業改善への組織的な取り組み状況について記述して下さい。

A：Ⅱ－8

従来、主に教科毎に担当者が連絡・打ち合わせを密にとりながらすすめてきた。とりわけ自主編成教材については、内容や扱い方等について、きめ細かく話し合い改善されるよう取り組んできた。

また、テーマによっては、教科担任とクラス・学年との連携を密にとり、情報を交換しながら、生徒の弱点が克服されるように努力してきた。

① 入学前学習

入学手続を終了した生徒に対し、国・数・英の中学校の範囲を復習するためのテキストを準備し、春休みにやるべき宿題を課した。そして、入学後の最初の授業で提出させ「生徒がどこでつまづいているか」を早期に把握する参考としている。

② 基礎力養成講座

授業での小テストをふまえて7時間目に、授業→小テスト→授業→小テスト…という内容の講習を行っている。

③ 応用力養成講座

希望者に対して、応用的な力をつけるべく、7時間目に講座を行っている。

④ 進学・就職講習

大学・看護学校進学希望者向けの講習をはじめ、自衛官をはじめとする公務員試験や就職試験のための講習を行っている。

※本校では従来、基礎力が不足している生徒が多く入学してきており、その対応に力を注いできた傾向が強かった。しかし、学力が高い生徒も入学してくるようになってきた時点で、検討をした結果「すべての生徒の学力をあげる」というごく当たり前でオーソドックスなテーマに行き着いた。

※現状としては各教科の壁を越えての授業視察とその後の意見交換を行っている。その他の方法についても検討していく余地があると思う。

Q : II - 9 過去3ヵ年の退学、休学、留年、転学等の数を、次の表を例にして記載して下さい。

A : II - 9

区分	2016年度	2017年度	2018年度	備考
1年生 在籍数 (5/1)	107名	103名	128名	
内、退学者数	8名	7名	2名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	0名	1名	1名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	99名	95名	127名	※2名転入
2年生 在籍数 (5/1)	89名	98名	95名	
内、退学者数	3名	0名	3名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	1名	0名	1名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	85名	98名	91名	
3年生 在籍数 (5/1)	105名	85名	98名	
内、退学者数	0名	2名	1名	
内、休学者数	0名	0名	0名	
内、退学者数	0名	0名	0名	
内、転学者数	0名	0名	0名	
内、留年者数	0名	0名	0名	
年度末在籍数	105名	83名	97名	

Q : II - 10 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者、転学者及び留年者に対する指導（ケア）の現状について記述して下さい。

A : II - 10

退学者の約8割が進路変更、残り2割が一身上の都合である。具体的な理由は様々である。中学校時代の不登校傾向がなかなか改善されない場合や校内での人間関係の悩みや不安から登校できなくなるケースは少なくなっている。逆にもともと不登校だった生徒が高校進学をきっかけに皆勤・精勤に近い出席率で生活している生徒も珍しくない。ここ最近の傾向としては、診断はされていないが発達障害・学習障害の傾向が見られる生徒や、集団生活不適應の生徒が増えているように感じられる。

保護者と密に連絡をとり、共通の願いがあることを確認しながら、生徒・保護者・教員間

の信頼関係を築いていくことが大切だと考える。そのために「入学前面談」「定期的な面談の実施」を行い、さらに成績不良者や遅刻・欠席の多い生徒に足しては各学期末に保護者と連絡をとり、共通の理解のもと生徒への指導を行うようにしている。

Q：Ⅱ－11 教育課程・学習指導（教務）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－11

校長より年度当初に発表される「経営方針」に「すべての生徒の学力をあげる」というテーマのもと、各教科でできるところから取り組んでいる状況である。先生方は「教員としての誇り」をもって取り組んでくれていると思う。今後、教務部がそのセンターの役割を果たし、さらにその内容の充実に向けてカリキュラムの変更も含め検討していきたい。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

Q：Ⅱ－12 生徒指導の年間指導計画が作成されているか、作成されている場合は概要を記述して下さい。

A：Ⅱ－12

別紙・・運営計画

Q：Ⅱ－13 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着を目指した生活指導がどのように行われているかを記述して下さい。

A：Ⅱ－13

具体的には入学式後に保護者を対象として、今後の生活指導（含他の分掌）について説明する（新生生には別に各分掌からのオリエンテーションの時間も設け説明・周知している）。学期毎に通知箋や学年・学級通信、指導部通信で発信をしている。また、日常的に担任が遅刻などに関わり、家庭と連絡をとって生徒の生活習慣について話し合い、連携をとっている。しかし、母子家庭や共働きの家庭が多い中で基本的な生活習慣の定着を目指した連携が困難なケースも多い。「どのような立場で家庭と連携するのか」という事や「どういう視点で連携するのか」など十分に共通理解を作りあげ、共通の願っていくことが課題となっている。

メンタル的に弱い生徒に関しては、基本的には支援の体制を学校として整備しているわけではないが、担任や養護教諭が相談などの窓口となり、退避場所・安心できる場所として保健室や教頭室を使用することもあり、丁寧な対応を心掛けている。また、全学年・全クラスでQUアンケートを実施しており、数値化された結果を適切に把握することで生徒個人および集団の現状が見えてくる。その結果をもって前述の面談などを行い、保護者との連携を深めている。

Q : II - 14 服装や身だしなみ、マナーなどの指導がどのように行われているのか記述して下さい。

A : II - 14

生徒指導部が中心となって頭髪・服装指導を行っており、各担任からのHR指導、各教員が廊下巡視や教室移動時に生徒へ声をかけるよう指導している。

また、全校集会時に生徒指導部から服装や集会時のマナーについてその都度注意をする。頭髪の違反については各担任が家庭と連絡をとり協力して指導にあたり、帰宅指導を行ったり、改善できるまで登校させない場合もある。

また、学年・学期の区切りごとに制服、頭髪の指導強化期間を設け、全校的に取り組んでいる。学年ごとの指導の温度差を解消し、メリハリのついた指導ができていると思われる。

Q : II - 15 問題行動の未然防止に関する取り組みがどのように行われているのかを記述して下さい。

A : II - 15

例えば暴力を防止するという事を課題としたときに、どこに問題の本質があるかをきちんと押さえたうえで考える必要があると思う。ただ悪いことをしなければいいという指導は表面的な指導でしかなく、本当の防止策とはならないのではないかと思う。「問題行動が起らなかったからいい」ではなく、「問題行動を起こす原因が何か」「問題行動に至る気持ちが抑えられた」という指導を目指していきたい。

現在は、生徒を日頃からよく観察するように、また、変化が見られるようなら学年団や家庭との情報交換等、連絡を取るよう指導をすすめている。しかし、「問題行動の未然防止」は当然、生徒指導のカテゴリーで考えられるが、本来は「問題行動を起こす原因」をなくするという事なので、授業・生徒指導・部活動・家庭環境等も含め、すべての領域で取り組みを追求すべき課題と考える。

Q : II - 16 クラブ活動の現状、生徒会の現状、学校行事（学校祭等）の実施の状況を、その指導体制及び生徒の活動状況を含めて記述して下さい。

A : II - 16

クラブ活動については、体育コース（野球部、サッカー部、柔道部、陸上部、バスケットボール部）を中心にとりわけ運動部の活動が活発で、全道・全国大会に出場する部活も増えてきた。

生徒会は、役員改選の選挙を行わず希望者は全員役員となるシステムにしている。その結果、役員の数も増え、生徒会活動（主に生徒会主催の青稜祭・競技大会・予餞会等）は、以前と比較して、量・質ともに充実してきている。企画・事前準備・実施・総括等ほぼ生徒自らが時間・労力ともに費やし、苦勞しながら行っており、自治的な力量もついてきていると思われる。

Q：Ⅱ－17 生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－17

校長の「経営方針」に「生徒との信頼関係を構築し、生徒の認識を変容させることをベースとして・・・」とある。この方針を全校的に展開するのは実践的には大変困難な面もある（先生方の価値観のどこを一致させていくのか等）。また、日常の生徒指導においても、QUテストの取り扱いにしても学年での温度差は出やすい。この問題を解消するために、平成29年度からはQUテストの実施ならびに分析会議の開催を生徒指導部が中心となって取り組み始めている。

【進路指導】

Q：Ⅱ－18 年間指導計画に基づく進路指導が、どのように行われているかを記述して下さい。

A：Ⅱ－18

進路指導は、より高く広い社会自立を目指し、外部関係機関とも連絡・指導を受けながら、教育活動全体を通して計画的かつ組織的に実践するよう努めている。

①就業体験

事業所の意味、作業内容の違い等を理解させ、そこで働く人々の姿を通して職場や実習の理解、就職への意欲・関心を高めている。

②三者面談

生徒・保護者・学校側の三者で、卒業後の進路希望を確認し、進路指導上の課題を明らかにして、相互理解のもとにその実現に向けての解決方法を探っている。

③学校説明会・体験入学等案内

④就業準備講習会

就職希望者に人事担当者や卒業生から、就職活動の取り組み方、企業が求める人材や、社会人としての心構えなどについて話してもらうセミナーに参加。

⑤各種検査

職業レディステスト・一般職業適性検査

⑥職業講話会

職業試験を目前に控え、新規高等学校卒業生を取り巻く就職環境について理解を深める。

- ・正しい職業観や、職業生活について理解を深める。
- ・企業の求める人物像について理解を深める。
- ・受験の準備や心構えについて理解を深める。
- ・進路決定に向けて目的意識を持った学校生活を送るための一つの指針とする。

⑦北海道未来ビュー参加

今年度から1年生を対象として参加。地域企業や道内・東北などの大学や短大、専門学校が参加し、興味あるブースでの職業体験や企業・学校案内を聞き、自分の進路発見につなげていく。

⑧進路ガイダンス

10月に2年生を対象として、本校に大学や短大、専門学校を招き進路学習を実施予定。

Q：Ⅱ-19 卒業後の進路への関心を高める計画的な取り組みが、どのように行われているのかを記述して下さい。

A：Ⅱ-19

①就業体験

事業所の意味作業内容の違い等を理解させそこで働く人々の姿を通して職場や実習の理解、就職への意欲・関心を高めるよう指導している。

②3年生進路個別面談

年間行事として5・6・8・10月に職安から3名来校してもらい、一人ずつ面談しながら意欲・関心を深めていく。また、必要に応じて実施回数を増やしたりもしている。

③各種検定の取り組み

各種検定に取り組むことで進学・就職への興味関心を高めモチベーション向上につなげている。

Q：Ⅱ-20 卒業後の進路に関する情報提供や保護者との懇談が、どのように行われているのかを記述して下さい。

A：Ⅱ-20

①進路三者面談

生徒・保護者・学校側の三者で、卒業後の進路希望を確認し、進路指導上の課題を明らかにして、相互理解のもとにその実現に向けて解決方法を探っている。

②進路ニュースによる進路状況の提供

③各学年による個別面談

不定期ではあるが年に数回学年主導で保護者面談を実施。1年次より年に数回の面談をすることで、生徒の現状や進路について細かく確認し、3年次の三者面談に繋げていく。

Q：Ⅱ-21 進路指導について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ-21

生徒の学力面での変化を的確にとらえ、確実に進学先・就職先を決定していくとともに、生徒にとって「進路とはなにか」というテーマもさらに深めていきたい。

また、放課後の講習についても、進学・就職講習については進路指導部が主導していく事でポイントをしっかりと押さえた指導をしていきたいと考えている。

高校に入学してから勉強が前よりも好きになった、苦手な教科が克服できたと言ってくれる生徒が増えてきているので、上記にあげたテーマを深め・進めていくよう検討していきたい。

【保健管理・安全管理・個人情報管理】	
Q : II - 22	事故や問題が生じた場合の保護者への説明や対応が、どのように行われているのか記述して下さい。
A : II - 22	事故や問題が生じた場合は、速やかに校長（不在の場合は教頭）に報告する。また、該当の生徒の保護者には事情に応じて担任、または教頭から連絡・説明し、同じ立場で問題に対応することを確認して協力して問題に対応する。
Q : II - 23	生徒や保護者の個人情報の取り扱いについて記述して下さい。
A : II - 23	学園の定める「函館大谷学園 個人情報保護規程」に則り取り扱っている。
Q : II - 24	教室や校舎内外の美化・清掃活動がどのように行われているのか記述して下さい。
A : II - 24	清掃については、教室内は生徒、校舎内外は校務補が担当している他、美化委員会が中心となって花壇の整備や、清掃活動も年に数回行っている。
Q : II - 25	健康・安全に留意した生活を送れるような指導がどのように行われているか記述して下さい。
A : II - 25	<p>①健康については、養護教諭を中心に教育活動全体を通じて行っている。一般的に通年で行われる健康観察・健康相談の他には下記のような内容を行う。</p> <p>4・5月 疾病異常者の健康相談、生活指導。</p> <p>6・7・8月 食中毒・感染予防指導 学校祭における食中毒予防指導と救護 夏休みの健康生活指導と健康管理指導</p> <p>9・10月 見学旅行前健康調査・事前指導アレルギー調査</p> <p>11月 かせ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 罹患調査</p> <p>12月 かせ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 冬休みの健康生活指導と健康管理指導 罹患調査</p> <p>1月 かせ・インフルエンザの罹患状況調査 室内の換気及び手洗い・うがいの励行 罹患調査</p>

- 2月 かせ・インフルエンザの罹患状況調査
 室内の換気及び手洗い・うがいの励行
 冬休みの健康生活指導と健康管理指導
 罹患調査
- 3月 一年間の健康生活の反省

以上の内容に基づいて、定期的に生徒・保護者向け「ほけんだより」を発行する。また担任と協力して保護者に直接連絡を取り説明・対応をする場合もある。

- ②安全については各教職員が各所に目を配る。また、近年自転車の乗り方による事故の可能性が高くなってきている。HRでの指導のほか、不定期ではあるが、登校時・下校時の指導を行っている。また、外部講師を招いて「交通安全教室」も行っている。
- ③年に一度、外部講師に教職員対象の救命救急講習を依頼し、AED やエピペンの使用方法などを学ぶ。

Q：Ⅱ－26 災害対策、防犯対策に関する取り組みがどのように行われているか記述して下さい。

A：Ⅱ－26

災害～地震・火災の避難訓練を毎年実施。

保護者・生徒への臨時休校などの連絡はホームページに掲載し、全体への周知

防犯～事務、教員が来校者プレートを持っていない者への声かけ、何かあれば警察へ連絡を取るようになっている。

また、近隣小・中学校と不審者などの情報を共有して登下校時の安全を図っている。

夜間の防犯対策としては警備会社による夜間(22時)校内巡回(警備)と施錠時のセンサー(セコム)を導入している。

Q：Ⅱ－27 保健管理・安全管理・個人情報管理について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－27

特になし。

【入試・生徒募集】

Q：Ⅱ－28 入学選抜の方針、選抜方法をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。

A：Ⅱ－28

合同進学説明会、学校説明会、私学進学フェア等、および中学校に出向いての説明会などで、パンフレット・要項等を配布し説明している。管内各中学校には3年生生徒分のパンフレット・要項等を配布している。

Q : II - 29 広報及び生徒募集についての体制の概要を記述して下さい。

A : II - 29

教務部の業務内容の一つとして生徒募集があり、教務部長と生徒募集担当2名の3名で内外の業務をこなしている。外部対応に関しては教頭、また部活の特待生の関係では各部活顧問に協力をしてもらう等、場面に応じて各先生方にも活動をしてもらっている。

生徒募集に関わっては、教師や学校が取り組んでいることに「教育的に」自信や誇りをもっているかどうかということが大きい。

H Pに関しては基本的にはシステム管理が担当している。現在、更新に関しては入試関係と臨時休業に関してしか更新できていないのが現状である。今年度中にH Pのリニューアルが完成する予定である。また、現在SNSの活用を検討しているが、個人情報保護の観点などで協議をしている最中であり、実用は未定である。

去年は創立130周年ということもありタブロイドを作成し管内中学校などに配布をした。

Q : II - 30 入試・生徒募集について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A : II - 30

学校見学のための授業は行わず、通常通りの生徒の様子を見てもらう事を前提とした学校見学をいつでも受け入れるという案内を平成25年から中学校(生徒・教員・保護者)に向けてしてきた。その結果、毎年相当数の中学生が見学に訪れるようになった。その事が生徒募集にどう繋がっているのかの検証については「なぜ本校に来たのか？」は在校生に聞けるが、入学しなかった生徒に対しては「なぜ来なかったか？」を聞くことができないので、「これが要因かな？」という予想でしかない。入試に関しては入選の際にきめ細やかな検討をし、生徒が安心して登校できるように心がけている。その結果、在校生や保護者から中学生やその保護者へとその情報が伝えられ、専願での出願が増えてきているのではないかと予想している。

通常授業日の学校見学に関しては「開かれた学校」という意味では良いことかも知れない。しかし「生徒募集的」には両刃の剣の部分もあり得る。いずれにしても、一層教育活動の充実が求められる。

【特別支援教育】

Q : II - 31 特別支援教育への取り組み・考え方を記述して下さい。

A : II - 31

別支援を要する生徒については、入学前にも入学後にも発達障害等の「判定」を受けていることが分かっているケースは稀であったが、平成25年度入試時の事前相談で複数の中学校から「特別支援を受けていた」「発達障害の判定を受けている」という相談があったが、それ以降は「疑いがある」「行動からみると」といった程度のものが多く、件数もまばらな状況である。入試段階での考え方は、発達障害の判定を受けているという事と本校がその生徒を指導していくことが可能かどうかは別の問題であると考えている。まして、発達障害をもった生徒の状況が全員異なる事を考えれば、それをもって合否の判定をすることはできず、事前相談の情報、入試・面接での様子をできるだけ総

合して判断している。そのような段階であるから、本校の特別支援の体制や取り組みが充分とはいえる状況ではない。しかし、特別支援を要する生徒への配慮や指導は、健全な生徒にも効果的な面があると思われる。現状ではどの生徒にも理解しやすく、どの生徒の「困り感」にも対応しようと努力をすること、そしてそれを相互に研修し教育力量として高めていく事が課題となっている。

また、現在では全学年でQUテストを実施し、学級・学校生活への意欲や満足度、友人や教師との関係、学習や進路への意欲などについて参考としている。今後も様々な角度から生徒を観察し、集団的に取り組んでいきたい。

Q：Ⅱ－32 特別支援教育について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ－32

学年・担任・養護教諭など関係する部署が情報を共有し、常に連携を取りながら、上記の取り組みをさらに集団的・組織的に行う。

【地域活動】

Q：Ⅱ－33 校内の様子（学校や部活動、行事など）を家庭にどのように伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－33

生徒会の発行する生徒会通信では主に生徒会企画の行事（青稜祭、競技大会、予餞会等）の取り組み状況や内容、感想等を生徒の手を通じて家庭に伝えている。また、各考查結果を家庭に郵送する際、生徒指導部から「指導部通信」、各担任からは「学級通信」により、個々の生徒やクラスの状況や到達点、学校の様子などを家庭に伝えている。

現在本校HPのリニューアル中であり、今後WEBでの発信も検討している。

Q：Ⅱ－34 地域などに対して、学校の様子をどのように伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－34

Ⅱ－24 で記述した内容のほか、年に一度発行される「学園報」、新聞折り込みのタブロイド版等により、高等学校を含めた学園全体の様子を伝えている。

Q：Ⅱ－35 PTAの活動について保護者にどのように情報を伝えているか記述して下さい。

A：Ⅱ－35

「PTA通信」により、学校への協力内容や学校行事などでのPTAの活動状況を伝えている。

昨年度からPTA役員が増え、これまでに出来なかった活動に関しても取り組めるようになってきたので、今後PTA事務局が中心となって活動の様子を周知していきたいと考えている。

<p>Q : II - 36 過去3 ヶ年 (2016 年度～2018 年度) の生徒による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。</p>
<p>A : II - 36</p> <p>熊本地震・九州北部豪雨・西日本豪雨の際、生徒会からの呼びかけで生徒有志による募金活動を行った。</p> <p>日常的には「リングプル集め」という取り組みやすい内容のものを行っている。</p> <p>また、特定の部活動ではあるものの冬季降雪時に学校の歩道をはじめ、近隣の交差点周りの除雪を行ったりもしている。</p> <p>今後は「体育コース」があるという特色を活用して、内容を充実させていきたいと考えている。</p>
<p>Q : II - 37 高等学校では生徒の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。</p>
<p>A : II - 37</p> <p>地域活動・貢献、ボランティア活動については、取り組み自体は不十分な状況である。このような活動は「どのような意識・認識をもって生徒が取り組んでいるのか」が、その活動の質の部分に大きく関わってくると考えている。現在、本校では生徒会改正の選挙は行わず、自主的に学校生活に取り組んでいきたいという生徒が活動していくという形をとっている。ボランティアなどに関しても同様で「活動としてしなければならない環境」を作るのではなく、生徒自身から湧き起こる「自分にも何かできないだろうか」という想いが根本にあり、動いていくのが望ましいと考える。</p> <p>そこを踏まえつつ、身近な地域貢献について情報を提供し、地域と密接な関わりをもつ、地域に支援される・開かれた学校作りを目指したいと考えている。</p>
<p>Q : II - 38 地域活動について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。</p>
<p>A : II - 38</p> <p>災害に関する募金活動は生徒からの声で校内外での自主的・積極的なボランティア活動が展開された。生徒達の感覚の良さやエネルギーを感じることができた機会であった。年間を通して定期的に継続していけるボランティア活動を検討し、さらに充実させていこうと考えている</p>
<p>【図書館等】</p>
<p>Q : II - 39 図書館等の概要について、全体の配置図、蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数、年間図書予算、購入図書選定システム、図書等廃棄システム、司書又は司書教諭の人数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。</p>
<p>A : II - 39</p> <p>校舎建て替え後、本校の図書館の施設・蔵書・生徒の活用状況等は充分であるとは言えなかった。しかし、退職した教員からの寄付などもあり、平成28年度から準備を行</p>

い、PCでの蔵書管理（ELISE-Egg3）や、AV資料を閲覧可能な視聴覚ゾーンの設置などの平成29年度から本格的に運用開始した。昨年度からは購入図書希望調査を年間通して行っている。さらに今年からは全生徒の証明書と一体型として利便性を向上させ、図書室の一層の利用を促している。

図書室全体の座席総数は22席程度。今年度の年間予算は200,000円となっており、司書資格を有した教員2名が購入や廃棄を検討している。購入図書の選定については生徒・教職員に役立つものを基本として選定している。廃棄基準に関しては利用頻度が著しく低いものや、内容や表現などが古く利用価値が失われたものとしている。

Q：Ⅱ-40 図書館等について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。

A：Ⅱ-40

本格的な運用が始まって4年目であり、課題は全てが明確になっている訳ではない。

図書室のサロン化や携帯電話の利用方法などの課題があるものの、図書便りや各HRでの啓発をする中で解決してきている。また、昨年からは各考査前に勉強をする生徒なども増えてきており、様々な活用を検討していきたい。

【特記事項について】

Q：Ⅱ-特 この《Ⅱ分掌》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、分掌について努力していることがあれば記述して下さい。

A：Ⅱ-特

特になし。

《添付書類》B：生徒に配布している教務に関する印刷物・シラバス・授業改善に関する資料・その他関係書類

《添付書類》C：生徒指導に関する印刷物・クラブ活動一覧表・その他関係書類

《添付書類》D：進路の実績（平成28年度～平成30年度）についての印刷物・その他関係書類

《添付書類》E：保健管理・安全管理・個人情報管理に関する書類

《添付書類》F：入試要項・学校パンフレット

《添付書類》H：図書館等の規程

《添付書類》G：地域活動に関する書類

Ⅲ 管理運営（ガバナンスの確立）

Q：Ⅲ－1 理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－1 良好に運営されている。理事長の下、全員一致で学園運営が進められている。
Q：Ⅲ－2 評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営されているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－2 評議員会参加率が高く、学校運営に理解を示し、諮問機関として力を発揮している。
Q：Ⅲ－3 監事は寄付行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－3 理事会前には、本部より資料を基に年度の運営状況の説明を受け厳しく監査をし、結果を評議員会にて説明・報告をしている。
Q：Ⅲ－4 高等学校の教育・運営上のトップである校長は、高等学校の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また高等学校に係る教育・運営上の事項はどのような流れで決定し、その流れの中で校長はどのように関与しているかを、できれば校長自身が率直に現状を記述して下さい。
A：Ⅲ－4 教職員の全員の力を借りながら学校運営を行っていると感じている。特に、教職員が働きやすい環境を提供するように努めている。また、生徒募集において教職員の先頭を切って地域の中学校に足を運び、現在の学校の状況を周知し理解してもらうべく行動をとっている。教育・運営上の流れについては、職員会議を中心に全員で確認しながら物事を決めていく流れで勧めている。職員会議での最終決定は校長が決定する。
Q：Ⅲ－5 管理運営について、現状の課題と今後の改善計画を記述して下さい。
A：Ⅲ－5 特になし。
【特記事項について】
Q：Ⅲ－特 この《Ⅲ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。
A：Ⅲ－特 教育環境の改善として特に進められてきたことはないが、中学生・保護者・中学校教員を対象として「学校見学はいつでもできます」ということは5～6年前から中学校に案内をしている。昨年度も15組程度の見学があった。

《添付書類》I：管理運営に関する書類

IV 財務

Q : IV - 1	学校法人もしくは高等学校において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。
A : IV - 1	今後5ヶ年の生徒入学生予想数等を基に中期的な経営計画を策定している。
Q : IV - 2	当該年度の消費収支の収入超過又は支出超過の状況について、又は事業活動収支における当年度収支差額の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を記述してください。
A : IV - 2	<u>当該年度の経常収支差額は34,817千円となっており、基本金組入後の当年度収支差額は60,962千円であった。道管理運営費補助金の定員遵守加算等で収入が長期計画を上回ったが、例年、収支は概ね均衡している。</u>
Q : IV - 3	財務情報の公開をどのように実施しているのか記述して下さい。
A : IV - 3	ホームページに掲載している。
Q : IV - 4	教職員に対して自法人の財務状況を毎期ごと十分に説明する機会を設けているか記述して下さい。
A : IV - 4	例年、5月の理事会終了後、教職員への財政説明会を実施している。
Q : IV - 5	財務について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A : IV - 5	現状においては大きな課題は無いが、今後、対象人口の自然減に伴う生徒数の減少に因る学生生徒納付金等の減は避けられないことから、有効な生徒募集対策が求められると同時に人件費、経費の抑制を図りたい。
【特記事項について】	
Q : IV - 特	この《IV財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。
A : IV - 特	単年度における赤字決算を出さないことを前提に予算の策定、執行をおこなうとともに、長期的に持続可能な学校運営をめざし、財務を管理、計画している。

《添付書類》J：財務に関する書類

V 改革・改善

Q : V - 1	自己点検・評価を高等学校の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているのかについても記述して下さい。
A : V - 1	普段の教育活動について、省みる言うことで非常に大切なことと考えている。教頭が評価を各担当へ依頼し、とりまとめを行っている。従来通りに実施する中で、道内大谷高等学校の相互評価を参考に進めていきたいと考えている。
Q : V - 2	過去3ヶ年(2016年度～2018年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。
A : V - 2	平成28年度よりWEB上で公表している。年度末に職員会議で確認された評価をとりまとめたものを、道学事課のヒアリング時に提出している。
Q : V - 3	平成29年度までに行った自己点検・評価の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているのかについても記述して下さい。
A : V - 3	新年度方針へ向けて各担当部署等全体で活用している。今後も同様の活用を考えている。
Q : V - 4	改革・改善について、現状の課題と今後の改善計画を記述してください。
A : V - 4	他校の現状を参考に本校において必要なものは取り入れ、また改善をしながら学校運営に反映し、生徒一人一人が安心して通える環境を整えていきたい。 また、学習環境としては既存施設の枠にとらわれず柔軟に外部施設を使用することで、充実した学びになるようにすすめている。
【特記事項について】	
Q : V - 特	この《V改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。
A : V - 特	<u>これまで以上に真宗大谷派の学校であることをアピールしていきたいと思っている。具体的な方法としては5年ほど前から学校説明会の際に体験授業の一つとして「宗教」の授業を実施している。</u>

《添付書類》K : 過去3ヶ年の自己点検・評価報告書・その他関係書類